

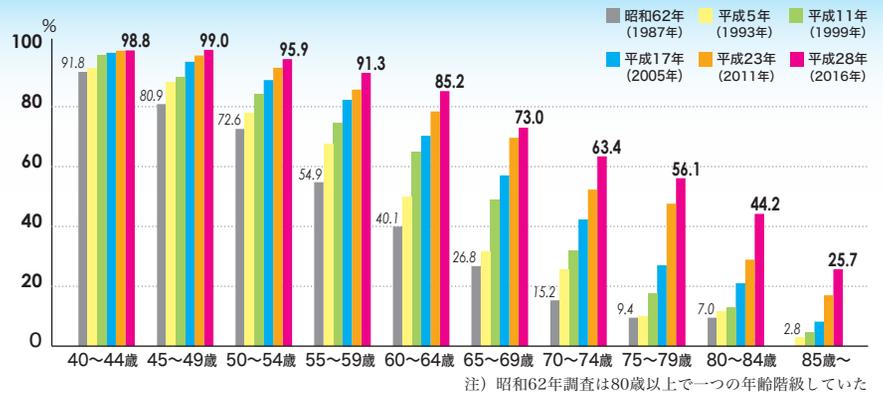
デンタルスタッフ・ミライ・プロジェクト ニュース

vol.25

厚生労働省調査にみる
(歯科疾患実態調査)

歯科医療の昔

20本以上の歯を有する者の割合の推移



今年6月、厚労省は80歳で20本以上の歯を有する方の割合(8020達成者)が初めて50%を超えたと発表しました。下グラフ①
20~30年前と現在を比べると歯科医療は大きく様変わりしています。ポイントをご紹介します。



①歯が20本以上ある人の割合が75歳以上の高齢者で大きく増加

30年前と比べると、歯が20本以上ある人の割合は75~79歳で6倍(9.4%→56.1%)、80~84歳で6.3倍(7.0%→44.2%)、85歳以上では9.2倍(2.8%→25.7%)にもなっています。

②歯を失ったことがある人の割合は40~49歳で大きく改善

30年前と比べると、1本でも歯を失ったことがある人の割合は40~44歳で39.9ポイント改善(71.0%→31.1%)、45~49歳でも35.6ポイント改善(76.7%→41.1%)など大きく改善しています。

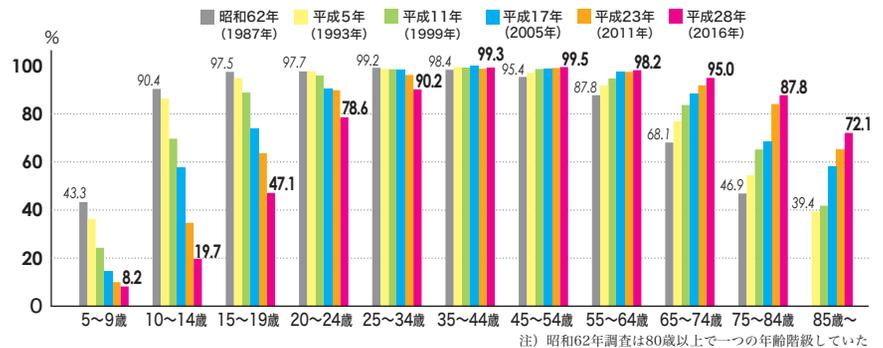
③むし歯がある人の割合は子どもでは改善、高齢者は悪化

30年前と比べると、むし歯がある人の割合は5~9歳で35.1ポイント改善(43.3%→8.2%)しましたが、65~74歳で26.9ポイント悪化(68.1%→95.0%)。むし歯を持つ高齢者が増えています。

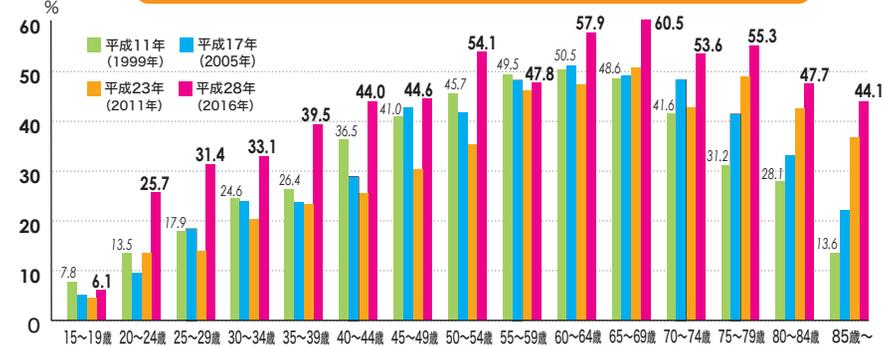
④4ミリ以上の歯周ポケットがある人はどの年齢層でも悪化

18年前と比べると、4ミリ以上の歯周ポケットがある人はほとんどの年齢層で悪化しています。

う歯を持つ者の割合の推移(永久歯:5歳以上)



4ミリ以上の歯周ポケットのある者の割合の推移



DH Pro.セミナー講師
山崎瑞穂先生による
コラムのコーナー



歯周病と糖尿病

者へ向け「生まれ変わったら歯科衛生士になりたい！」をテーマとした第2回講演会を開催致します。

以前、西田先生のご講演を拝聴した際、私はそれまで以上に歯科衛生士という仕事が好きになり、誇りと強い責任を感じました。私たち歯科医療従事者が健康の「鍵」を握っていることを広く伝え、患者さんに寄り添いながら一人でも多くの方に未病のまま健康で幸せに過ごして頂けるよう、本気で取り組んでいく必要性を感じました。

そのために「今」出来る事は、チェアサイドで患者さんにプレゼンテーションをすること、患者さんを全面的に支援するとともに敬意と感謝を大事にして伝えていくこと、そして学ぶ場をつくることだと考えています。皆さん、10月15日はぜひ一緒に学びませんか？

第2回「母の会」
10.15 (日) 10:00~15:30
会場: オルガホール

講演: 糖尿病を学べば歯科衛生士の貴き力が見えてくる

日時: 平成29年10月15日(日) 10時~15時30分
会場: オルガホール
料金: ¥5,000(歯科助手、歯科技工士、歯科衛生士) ¥10,000(歯科医師)

図 糖尿病と歯周病の医科歯科連携



歯周病と糖尿病について、私達と一緒に学びませんか？

2014年10月に発足した歯科衛生士スタディーグループ「母の会」(代表山崎瑞穂)は、年4回、スキルアップを目指す勉強会を開催するとともに、年1回、講演会を開催してまいりました。

来たる10月15日には糖尿病専門医の西田互先生(にしだわたる 糖尿病内科院長)をお招きし、「糖尿病を治したかったら歯医